

1 審議会等の名称	令和8年度第1回三重県観光審議会
2 開催年月日	令和8年5月18日(月)
3 委員	【会長】埼玉大学 教授 石阪督規 他7名出席 計8名
4 諮問事項	次期三重県観光振興基本計画策定に向けた本計画の骨子案に係る審議等
5 審議概要	<p>委員からの主なご意見は以下のとおり。</p> <p>&lt;現行計画の振り返り&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・KGI(重要目標達成標)を「観光消費額」にしていることについて、KGIが消費額だけでは、地域経済への貢献という本来の目的を見失いかねない。本当に経済政策として観光を考えるのであれば、「経済波及効果額」をKGIとして、「域内調達率」といった県内の経済循環の向上を示す指標をKPIに据えるべき。</li> <li>・課題への対応を検討するだけではそれ以上の発展が見込まれない。課題への対応だけでなく、他府県に勝る三重県の強みを伸ばすことが必要である。</li> </ul> <p>&lt;10年後のめざす姿・目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンセプト案に掲げられた「訪れるべき場所」という方向性を真に実現するためには、「三重県が提供する価値とは何か」を、より明確に言語化することが不可欠。この提供価値を定義し、絞り込むことによって、初めて戦略的な予算の集中が可能になる。</li> <li>・式年遷宮前後の需要の調和は本県特有の極めて重要な視点。盛り上がりや平準化やリピーター化につなげるためにより踏み込んだデジタル施策やプロモーションの連動が期待される。</li> </ul> <p>&lt;施策の柱1 質が高く、持続可能な観光地づくり&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光客が宿泊する理由となる観光コンテンツが必要であり、それらは観光客の需要があるものでなければならない(特に、朝や夕方～夜のコンテンツは宿泊の誘導に繋がる)。既存コンテンツ(例:公営施設である美術館やビジターセンター)の利活用促進、宿泊施設自体でのコンテンツの充実も一案である。観光客に接している現場の人から意見を収集するのも有効ではないか。</li> <li>・オーバーツーリズムについては、その定義が曖昧であるため、発生する場所・時期・具体的な事象(交通混雑、宿泊施設のキャパシティ等)を明確化すべきである。その上で、日本人・インバウンド双方の観光客数に対する本県の受入容量(人口、面積、宿泊</li> </ul>

施設数等)を分析し、実態を客観的に把握する必要がある。また、地域住民の意識についても、実際に生じている「実害」か、報道等による「漠然とした懸念」かを切り分けて分析し、それぞれに応じた的確な対策を講じるべき。

- ・観光客を増加させるため、どの季節にどのような人が来ても良いということではない。オーバーツーリズムの事前防止という観点で、どの時期にどのような観光客に来訪してほしいか、詳細にマーケティングを行い、誘客したい季節・時間帯を明確にする必要がある。

#### <施策の柱2 戦略的な観光誘客の推進>

- ・国籍ごとの来訪時期の違いを踏まえ、市場を多様化する必要がある(観光客の国籍別に、中国は夏、ヨーロッパは秋、東南アジアは冬に来訪が多い)。
- ・三重県までの道中、名古屋駅で新幹線から近鉄へ乗り換えるのが難しい等、アクセス面で不便を感じることは、三重県のイメージダウンにも繋がってしまうのではないか。

#### <施策の柱3 魅力的な観光産業の確立>

- ・観光業の年収や勤続年数を伸ばすためには、まず、三重県の観光業の収入を全国の観光業や、県内の他産業に比べて高くすれば良い。その結果、観光業に人材が集まり、施策の柱1「質が高く、持続的な観光地づくり」や施策の柱2「戦略的な観光誘客の推進」にも繋がると考える。
- ・中小規模の事業者が多い本県の観光産業において、生産性の向上は喫緊の課題であり、その鍵となるのが「AIの活用」。人材に関しては、「育成→定着→確保」という順番が極めて重要であり、新たな人材を「確保」する前に、まず今働いている方々の「育成」と「定着」に投資すべき。
- ・人材確保・定着を実効性のあるものにするには、観光DXや業務外注化(BPO)を強力に支援し、現場の負担を劇的に減らす構造改革が必要。

#### <横断的視点 観光DX、取組の充実・継続>

- ・安定的な財源の確保について、一例として宿泊税が考えられる。宿泊税の導入そのものには賛成だが、その運用方法が極めて重要で、市町の声に十分に耳を傾け、財源のあり方や用途について、全体のバランスを考えながら丁寧な制度設計を進めることを要望する。